て、ヨナを丸呑みにしてしまひました。呑まれたヨナは、三日三夜、魚の腹の中で、自分の惡かつたことを悔い、神様にお詫をして、お祈りいたしました。神様はヨナの罪をお赦しになりましたので、魚はヨナを陸に吐き出しました。

◇十月二日◇

わが靈魂うちに弱りし時、我エホバ(神)を思へり、しかしてわが祈り汝(神)に至れり。（ヨナ書二章七）

ヨナは魚の腹の中で一生懸命にお祈りをして助けていただきましたので、大いに元氣を出して、ニネベの町へのりこみました。そして勇敢に神様の御教を説いてニネベの人達を悔い改めさせました。私たちも何かのために靈魂の弱る時も、神様にお祈りをいたしますならば、ヨナのやうに勇氣のある人に

なることができます。

◇十月三日◇

神は大にして測り難き事を行ひ給ふ。（ヨブ記五章九）

神様の御計畫は大きくて、目の先だけしか見えない人間には迚も考へることのできない不思議な事を行ひ給ひます。自然界のこと、また人の躰のふしぎな働きなどをよく考へますと、私たちはただ〳〵神様の御業のすぐれて大きなことに驚くのほかありません。

◇十月四日◇

神は心慧く力強くましますなり、誰か神に逆らひてその身安からんや。（ヨブ記九章四）

神様を敬はず、神様を粗末にする人に立派な人はありません。どんなに力の

ある人でも、どんなに知識や智慧のある人でも、神様に背くことはできません。神様に背いてその人に安心のあらう筈はありません。神様に背てゐるならば亡びてしまひます。神様は正義であり、善であり、愛でありますから、それに背く生活をする人は亡びます。

◇十月五日◇

我この家を選びかつ聖別む、我名は永く此處にあるべし。（歴代志略下七章一六）

神様がお選びになつて、聖めて下さる家庭は、この上もない聖いうるはしい家庭であります。いつも神様は其の家を御護り下さいます。

◇十月六日◇

人の身にとりて善かつ美なるものは、神の賜はるその生命の極、勞して得る所の福祉を身に享くる事これなり。（傳道之書五章一八）

人間がこの世の中で働くことは、神様から與へられた義務であるばかりでなく、人間の善であり美であります。力を盡して働かないで、幸福にならうとしたり、福祉を受けようと考へるのは、最も醜いことであります。力を盡して働いて、その勞力によつて幸福を受けることは、人間のもつ美しさであります。

◇十月七日◇

神は人を正しき者に造り給ひしに、人多くの計略を案出せり。（傳道之書七章二九）

人間の行ふ罪惡は、決して神様のお造りになつたものではありません。神様は人間をきれいに善くお造りになつたのに、人間は勝手に惡い事を考へて、汚くなつてしまつたのです。ですから、神様の子供になることは、神様が、さいしよお造りになつた時のやうな、きれいな心の人になることです。

◇十月八日◇

神は人の心に永遠を思ふの思念を賦け給へり。（傳道之書三章一一）

人の生命は短いものですけれども、自分が生きる間よりも、もつと永い永遠のことを考へます。死んだ後はどんなものか、來世はどんなところか、また限りなく生きてゐたいと考へない人はありません。さう考へると、限あるお金や財産だけでは、たよりになりません、永遠においでになる神様に賴らなければならぬと思ふやうになります。これは神様が人間に與へ給ふた貴い心のはたらきです。

◇十月九日◇

なんぢ神に誓願をかけなばこれを果すことを怠るなかれ。（傳道之書五章四）

何か一つ善い事をしようと思つて、神様にお祈りをすることがあります。さういふお祈りをしたならば、それを實行することを忘れてはなりません。お祈りをしただけで投げやりにしておくならば、神様に虚のお祈をしたことになります。お祈りをしながら、自分もその目的の爲に努めなければなりません。

◇十月十日◇

汝の口をもて汝の身に罪を犯さしむる勿れ。（傳道之書五章六）

人の御機嫌をとるために、ありもしない事を言つたり、一緒になつて人の惡口を言つたりすることがあります。また一寸口をすべらしたばかりに、惡い事と知りながら、それを行はなければならぬこともあります。そんな罪を犯さないやうに言葉に氣をつけなければなりません。

◇十月十一日◇

いつはりなる虚しきものに仕ふるは己の恩たるものをすつ。（ヨナ書二章八）

神様は、人間に生命を與へ、しかもおつくりになつた凡ての物の上に首長として、特別に尊い心や靈魂をお與へになりました。神様の御惠は一番多く人間に與へられてゐます。皆さんも人間に生れたことを、ほんたうに有り難いと思ふでせう。——この特別な御惠をお與へ下さつたのは、神様の深い御意によるのです。それは、獸物や鳥や虫けらなどのやうに、ただ生きてさへゆけばよいといふのでなく、もつとよい生き方、もつと立派な生き方をさせようとの御意であります。さういふ尊い人間でありながら、恥かしい事をしたり、動物にも劣るやうな生き方をしてゐる人は、恩と惠を與へて下さつた神様をすてたことになるのです。神様の御惠に報いるには神様の御意に從つて生きることであります。

◇十月十二日◇

智慧も身の護庇となり、銀子も身の護庇となる。されど智慧はこれをもてる者に生命を保たしむ、是知識の殊勝たる所なり。（傳道之書七章一二）

こゝで智慧とあるのは、神様を信ずる信仰のことであります。お金はなくてならぬ物で、大切な身の護りであります。けれどもお金はなくなります。またお金のために却つて身を亡ぼす人があります。信仰はお金よりも確な身の護りです。

◇十月十三日◇

わかき男、わかき女、老いたる人、幼き者よ。みな主の聖名をほめたたふべし。（詩篇一四八篇一二、一三）

神様は、誰にでも其の人にちやうど好いやうに、惠みと助けをお與へ下さい

ます。若い人にも老人にも、男にも女にも、それ〳〵必要な物をお與へ下さいます。私たちはその御恩をかんしやして「有難うございます」と心から讃めたゝへなければなりません。

◇十月十四日◇

眞理を買へ、之を賣るなかれ。（箴言二三章二三）

愛、正直、正義、かういふものは眞理であります。眞理は大切な寶物です。ですから、どんな高い代價を拂つても、自分の所有にすべきもので、決して手放すべきものではありません、お金や名譽のために賣拂つてはいけません。

◇十月十五日◇

凡て汝の手に堪ふる事は力をつくして之をなせ。（傳道之書九章一〇）

私たちはまだ子供ですから、たいして大きな仕事はできませんけれど、自分

の手でできる小さい仕事が澤山あるでせう。例へば、お使ひにゆくとか、老人の手をひいて上げるとか、お庭や表を掃くとか、植木に水をやる、といふやうなことが、いくらでもあります。何でも自分の手で出來ることは一生懸命力をつくしていたしませう。

◇十月十六日◇

手をものうくして働く者は貧しくなり、つとめ働く者の手は富を得。（箴言一〇章四）

同じ仕事をするにも、厭々するのでは、良い仕事ができません。また立派な物が出來ません。ですから、其の人は貧乏になります。けれどもよろこんで一生懸命に働く人は、富と幸福を握ることが出來ます。

◇十月十七日◇

柔和なる答は憤恨をとどめ、はげしき言は怒りを激す。（箴言一五章一）

どんなに荒々しい言葉をかけられても、また相手が怒つてゐても、こちらで優しい答をするならば、相手の人も言葉をやはらげて、柔しくなつてまゐります。反對に、激しい言葉は、まはりの人々を怒らせたり、厭な思ひを起させたりするものです。

◇十月十八日◇

蔬菜を食ひて互に愛するは肥えたる牛を食ひて互に恨むるにまさる。（箴言一五章一七）

たとへ御馳走のない粗末な食事でも、家族一同睦まじくして食べることは、爭ひをしたり、仲惡をしたりして立派な御馳走を食べるよりも、どれだけ美味くまた樂しいか知れません。

◇十月十九日◇

惡しき人は逐ふ者なけれども逃ぐ。（箴言二八章一）

人に顏を見られて困るやうな事、例へば、お金をかりて返さないとか、欺いてゐるとか、迷惑をかけるやうな事をしてゐる人は、その人の顏を見れば自分で逃げてしまひます。世間はわりあひに狹いものです。その狹い世間をます〳〵狹くして、窮窟な一生を過さなければならぬやうでは、哀れなものです。

◇十月二十日◇

少者の榮はその力なり。（箴言二〇章二九）

年の若い人は、まだ財産や身分や地位などについての「名譽」を持つてをりません。けれども、これからそれらの物をつくつてゆく「力」を持つてゐます。そ

の力こそ若い人の榮であります。身體と心を丈夫にし、知識を磨いて立派な人になるやうにつとめませう。

◇十月二十一日◇

親しき隣はうとき兄弟にもまされり。（箴言二七章一〇）

「遠い親類よりも近い他人」と言ふ諺があります。血を分けた兄弟でも仲善くしないならば、親しい隣の方がよつぽど頼りになります。何か大變な事が起つた時など、まづ近所隣りが第一ですから、その人々と兄弟のやうに睦まじくしなければなりません。

◇十月二十二日◇

わが天より降りしは、わが意をなさん爲にあらず、我を遣し給ひし者の御意をなさん爲なり。（ヨハネ傳六章三八）

イエス様は、まことに尊い御教を傳へ、立派な事を行ひ給ひましたが、それは天の神様の仰せをお行ひになつたものでした。これまで世の中に出た英雄豪傑の多くは、自分勝手なことをして多くの人を殺したり、多くの國々を困らせました。しかしイエス様は、神様の御意をなすためにこの世へお出でになりましたから、多くの人を幸福にして下さいました。

◇十月二十三日◇

少しの物をもちてエホバを畏るるは、多くの寶をもちて擾煩あるにまさる。（箴言一五章一六）

たとへ貧しくとも、正しい道を歩み、神様を敬ひ、人を愛し、一家平和に生活をするならば、それは天國のやうな生活であります。多くの財産を有つても、心配や苦しみの絶えない生活は決して幸福な生活ではありません。

◇十月二十四日◇

智慧を穫るは銀をうるに勝り、その利は精金よりもよければなり。

（箴言三章一四）

智慧といふのは、神様の御教のことで、人の歩むべき最も貴い道であります。お金を儲けるために、心や躰をくだくよりも、神様の御教に從つて、立派な人になり、心の平和をもつ方がはるかに確かで、また大切なことであります。その益は幸福とか尊敬となつて身につきますから、お金の利子よりもよいのです。

◇十月二十五日◇

凡ての守るべきものよりも勝りて汝の心を守れ、そは生命の流れこれより出づればなり。

（箴言四章二三）

世の中に、自分の心よりも、大切なものがあるでせうか。お金や財産を心よりも大切にしてゐる人が澤山あります。そして一番大切な心を他のものに奪はれたり汚されたりしてゐます。そのやうな人は、ただ身體だけ生きてゐる人間であります。心を大切に守りませう、神様のお與へ下さる永遠の生命は、清い心のなかに湧き上ります。

◇十月二十六日◇

怠る者よ蟻に行き、その爲す所を見て智慧を得よ。

（箴言六章六）

蟻がせつせと食物を集めてゐる間、歌つてばかり暮してゐた蟋蟀が、やがて冬が來て食物がなくなつた時、蟻の所に行つて食物を下さいと言つたといふ話を、皆さんは御存じでせう。神様を信ずることを怠つて、いつか苦しい目に遇ふやうな時、或は老人になつてさびしくなつてから、はじめて慌てだし

ても、間に合はないことがあるでせう。

◇十月二十七日◇

エホバを畏るるは知識の本なり。愚なる者は智慧と訓誨とを輕んず。

（箴言一章七）

神様を敬ふ人は、謙遜な心の人であります。謙遜な心の人に本當の知識がはいつてゆきます。本當の知識とは、ただ物事を知ることだけではありません神様を敬つて、謙遜になることです。頭のよい人よりも、立派な心の人をつくるのが本當の知識です。

◇十月二十八日◇

神は御意をなさんために汝らの衷にはたらき、志望をたて業を行はしめ給ふ。

（ピリピ書　章一四）

神様は、私たち一人々々にそれ〴〵の仕事をお與へになります。皆さんが大きくなつて、どんな仕事をするやうになるかわかりません。神様は、皆さんの心のうちにはたらいて、それ〴〵の志をたてさせ、一人々々に、ちやうどよい仕事をお與へ下さいます。その仕事は、神様の御意をおよろこばせするためです、よろこんで勵みませう。

◇十月二十九日◇

汝はわが神なり、我にみむねを行ふことを教へ給へ。

（詩篇一四三篇一〇）

これは、「神様の御心を行ふことができますやうに」とのお祈りであります。「神様よ、御心が行へますやうにおみちびき下さい。そして力をお與へ下さい。勵まして下さい。どうぞ、神様の御心を行ふにふさはしいやうに聖めて下さい」と、私たちもお祈りいたしませう。

◇十月三十日◇

子たる者よ、凡ての事みな兩親に從へ、これ主のよろこび給ふ所なり。

（コロサイ書三章二〇）

神様の御教によく從ふ人は、まづ第一に兩親によく從ふ人であります。親をそまつにしたり、親にそむくやうな人は、神様のおよろこびになる人ではありません。イエス様も三十歳まで、お家のお手傳ひをして親孝行をなさいました。神様は親にしたがふ人をおよろこびになります。私たちも、お父さまや、お母さまを大事にいたしませう。

◇十月三十一日◇

なんぢ神と和ぎて平安を得よ、さらばさいはひ汝に來らん。

（ヨブ記二二章二一）

人間は大そう勝手なもので、少し自分の思ふやうにならなかつたり、不幸な

目にあつたりしますと、神様は無慈悲だなどゝ言つて、神様にうらみ言を申上げたりします。神様と仲たがひをしてゐるならば、ほんたうの幸福はありません。神様と和いで罪の赦しと、まことの平和を得なければなりません。

◇十一月一日◇

なんぢの口を廣く開けよ、われ物を充しめん。

（詩篇八一篇一〇）

神様に信じ賴り、大膽にお願ひする人は、平和と歡喜、正直、謙遜、親切、希望、感謝などの美しい惠や幸福を充たしていただくことが出來ます。口を廣くあけるとは、大膽にお祈りすることを申します。

◇十一月二日◇

彼はわが神なり我これをたゝへん、彼はわが父の神なり、我これを崇めん。

（出埃及記一五章二）

私たちの拜む神様は、氏神さまのやうな、その村や町、またはその國だけの神さまでなく、世界ぢうの人の神様であります。その大きい貴い神様が、私たち各自の神様であり、また私たちのお父さまや御先祖たちをお護り下された神様であります。――この優れた神様を、心から崇めて讃美いたしませう。

◇十一月三日◇　（明治節）

なんぢらは我の聖民となるべし。　（出埃及記二二章三一）

神様の御心にかなふ聖民は、國民として天皇陛下に忠義を盡します。また同胞を心から愛します。聖民は、自分の慾や儲のために他人を欺しません、自分の我儘や都合のために他人を苦しめません。聖民は善き國民です、聖民となるには教育だけでは足りません。イエス様の御力によつて、心の奥まで潔められなければなりません。

◇十一月四日◇

主は謙遜者を救ひ給ふべし。　（ヨブ記一二章二九）

どんなに偉い人でも、神様の前に出れば赤坊も同じこと――。人の前には威ばつても、神様の前には威ばることができません。神様は自分を卑くして賴る人に恵みを與へ、その人の罪をゆるし、永遠の幸福をお與へ下さいます。人と人とのあひだでも、威ばつてゐては助けて戴くことが出來ません。

◇十一月五日◇

神の目は人の道の上にあり、神は人のすべての歩みを見そなはす。　（ヨブ記三四章二一）

私たちが、高いところから見下しますと、下を歩いてゐる人がどんなに歩いてゐるかが、よく判ります。それと同じやうに、神様は私たちの歩いてゐる

道を、よく御存じです。神様の御目をごまかすことはできません。神様の御意にそむいた行き方をするならば、とんでもない方へ迷つてしまひます。

◇十一月六日◇

萬軍のエホバよ、汝に依頼む者はさいはひなり。（詩篇八四篇一二）

神様に頼ることは、意氣地のない者のすることだと考へる人があります。けれども子供が親にたよるのは美しいこと、また親しいことで、それが當りまへのことです。もし、子供が親に背いて離れてゐたら、親も悲しく、子供も淋しいことでせう。そのやうに、神様から離れてゐる人は幸福ではありません。

◇十一月七日◇

世の人は如何なるものなればこれを聖念にとめ給ふや、人の子はいかなるものなればこれを顧み給ふや。（詩篇八篇四）

月や星の美しさを見て、意地悪るや慾張りの汚い人間を見るならば、何と人間は見憎いものであらうと思ひます。神様は美しい月や星をはじめ、あらゆる物をお造りになつたのに、どうして、人間だけに特別に御心を用ひ給ふのでせう。それは、神様は人間に特別な心と靈を與へて神様に似せてお造りになり、萬物の靈長として、凡てのものを人間の手に任せて治めさせ給ふからであります。ですから私たちは、それだけの價値のある美しい清いものにして戴かなければなりません。

◇十一月八日◇

なんぢ義の供物を献げてエホバにより頼め。（詩篇四篇五）

神様は依頼む者をよろこんでお恵み下さいます。神様に頼つてさへゐるなら

ば、いつでも大丈夫です。神様に依頼むのに供物がいります、それはお金や品物ではありません、正義を實行することであります。曲つた事をしながら賴つたのでは、神様は相手にして下さいません。

◇十一月九日◇

われ常にエホバをわが前におけり、エホバ我が右に在せばわれ動かさるることなかるべし。（詩篇一六篇八）

神様から離れてゐるならば、つひ善くない事もしたくなります。苦しい時には悲しくもなり、心配も多くなり、また惡魔にも誘はれ易くなつてまゐります。いつも神様の前に居り、神様にしつかり摑まつてゐるならば、心が落着いて平和に暮すことが出來ます。

◇十一月十日◇

われわが衷に能力をもて働き給ふものの働きにしたがひ、力を盡して勞するなり。（コロサイ書一章二九）

聖パウロは、イエス様のために大へん偉い働きをいたしました。その働きはとても人間では出來ない程すぐれたものでした。けれども、それは自分の力ではなく、自分のうちに働き給ふ神様のお力である。自分はただそのお力に從つて、力を盡して勵むだけである、と申しました。

◇十一月十一日◇

義しき者は患難多し、されどエホバはみなその中よりたすけ出し給ふ。（詩篇三四篇一九）

正しくない世の中で、正しい事をしようとすれば、人から欺かれたり、いろ〳〵なことを言はれたりして、苦しい思ひをしなければならぬことがありま

す。けれども神様は義しいことをする人の味方ですから、その人を凡てのなやみから救ひ出して下さいます。

◇十一月十二日◇

あゝ神よ、鹿の溪水をしたひ喘ぐが如く、わが靈魂もなんぢをしたひ喘ぐなり

わが靈魂は渇ける如くに神をしたふ活ける神をぞしたふ。（詩篇四二篇一）

これは、神様を慕つてやまない人の歌つた大そうきれいな詩であります。渇いて苦しんでゐる鹿が、谷川の水をしたふやうに、自分の靈魂は活きた神様をお慕ひ申し上げるといふのであります。このやうに、神様をしたふ靈魂こそ、神様はまたこの上もなく愛してお恵み下さいます。そして渇いた鹿が谷川の水を飲んでよろこぶやうに、神様の御恵みに充されることが出來ます。

◇十一月十三日◇

晝はエホバその憐憫をほどこし給ふ、夜はその歌われと共にあり、この歌はわがいのちの神にさゝぐる祈なり。（詩篇四二篇八）

あわただしい晝間の勉強や働きに、私たちは神様を忘れることもありますが神様は絶えず御心をもちひて、私たちが危いことのないやうに、病氣をしないやうに、また元氣で暮せるやうにお守り下さいます。夜になつてお夕飯をたべる時、或は床にはいる時、この御恵を感謝いたしませう。

◇十一月十四日◇

神はわれらの避所また力なり、なやめる時の最ちかき助なり。（詩篇四六篇一）

私たちが生きてゐるあひだに、いろ〳〵の苦しみや、なやみや誘惑が、暴風や、巨浪のやうにおしよせてまゐります。そんな時に、どこか隠れ場所や休み場所がなければやり切れません。神様こそは最も安全な隠れ場所、また最

も近い助けであります。神様に助けていただくならば、新しい力が湧いてまゐります。

◇十一月十五日◇

あゝ神よ、わがために清き心をつくり、わが衷になほき靈を新に起し給へ。

（詩篇五一篇一〇）

これは大事なお祈りです。皆さんの心は新しく造り替えられなければなりません。「イエス様の十字架の血によつて清められ、雪よりも白い心にして下さい、水晶のやうに透きとほる義しいものにして下さい」と、お祈りいたしませう。

◇十一月十六日◇

若き人は何によりてかその道をきよめん、聖言にしたがひて慎しむ他ぞなき。

（詩篇一一九篇九）

あなた方がこれから生きてゆく道を、清く樂しくするには、どうしたならよいでせう。勉強することも大事です、働くことも大事です。けれどもそれだけでは足りません。立派な教育のある人でも隨分惡い事をするではありませんか。生きてゆく道を清く樂しくするには、どうしても神様の御教に從ふ他ありません。

◇十一月十七日◇

エホバわれに宣給へり、汝はわが子なり今日われ汝を生めり。

（詩篇二篇七）

神様を知つて、イエス様を信じた人は、神様から生れた神様の子供であります。父母は身體の親であります。靈魂の親は神様であります。神様に生んでいただいたことは何といふ幸福なことでせう！

◇十一月十八日◇

われ臥していねまた目さめたり、エホバわれを支へ給へばなり。（詩篇三篇五）

朝ぽつかり目をさまして明るい窓を見た時、皆さんの頭にどんな事がうかんでくるでせう。私たちはまづ神様のことを思はなければなりません。昨晩安らかに眠つてゐる間も、神様は天の星のやうに少しもねむることなく、私たちをお守り下さつたことを考へ、そして今朝また新しい一日をお與へ下さつたことを感謝しなければなりません。

◇十一月十九日◇

視よ、はらから相睦みて共にをるは、いかに善く、いかに樂しきかな。（詩篇一三三篇一）

兄弟仲よく遊んだり、また家族睦じく暮したり、お友だちと親しく交はることは、はたから見ても氣持の好いものです。また日本人が朝鮮や支那の人と仲よくしたり、歐米の人に親切をするのも、ほんたうに美しい立派な行爲で誰が見てもうれしく感じます。

私たちは、たがひに仲よく暮しませう、親切な心で交はりませう。

◇十一月二十日◇

汝いのちの道をわれに示し給はん、汝の御前には充足れる喜びあり、汝の右にはもろ〳〵の樂みとこしへにあり。（詩篇一六篇一一）

惡魔の敎へる道は滅びにゆく道であり、人間の考へた道には正しくない道もあるでせう。けれども神様が敎へて下さる道は生命にゆく立派な道であります。その道には、喜びと樂みが、きれいな花のやうに咲いてゐます。

◇十一月二十一日◇

その力汝にあり、その心シオンの大路にあるものは幸なり、かれらは涙の谷をすぐれども其處を多くの泉ある所となす。――彼らは力より力にすゝみ遂にシオンに至りて神にまみゆ。（詩篇八四篇五―六）

「シオン」とは、むかし神様のお殿のあつたところを申します。神様のお力を戴いて、神様のおよろこびになる道（シオンの大路）を進む人は幸ひであります。その人はたとへ、涙の出るやうな苦しい辛いことがあつても、却つてそこを喜びの清水のわくところとし、ます〳〵元氣づいて進むことが出來ます。

◇十一月二十二日◇

なんぢの聖言はわが足の燈火わが路の光なり。（詩篇一一九篇一〇五）

太陽は照らしてゐますけれども、世の中には暗い所が澤山あります。惡魔が

陷し穴を堀つてゐます。うつかりすると其の穴に落ち込みます。神様の御教は私たちの足もとを照らす燈火となり、光となつて、私たちが穴へ落ち込まないやうに導いてくれます。私たちはこの燈火にたよつて進みませう。

◇十一月二十三日◇

もろ〳〵の天は神の榮光をあらはし、穹蒼はその御手のわざを示す。――語らず言はずその聲きこえざるに、そのひびきは全地にあまねく、その言は地のはてにまでおよぶ。（詩篇一九篇一―四）

太陽はかがやき、月は照り、星はきらめいて、大空に神様のみさかえをあらはし、神様のお造りになつたお仕事を示してゐます。それらのものは聲を出して、神様をほめたゝへませんけれども、その光は地の極までも照らしますから鳥も獸も草も木も、凡て生きてゐるものは、神様のお仕事とみさかえを

讃めたゝへてゐます。

◇十一月二十四日◇

エホバはわが牧者なり、われ乏しきことあらじ、エホバは我をみどりの野にふさせ、いこひの水際にともなひ給ふ。（詩篇二三篇一、二）

イエス様は、我は善き牧者なりと仰しやいましたが、神様もまた私たちの牧者であります。羊は自分の身に危い事がせまつてゐてもそれを知りません。迷つて行つても、それがわかりません。また、どこに青草があるか、よい水の流があるかも知りません。神様は私たち羊を、みどりの野邊に導き、清い流の水際につれて行つて、養ひまた休ませて下さいます。

◇十一月二十五日◇

エホバよ、汝は我をさぐり我を知り給へり、汝は我立つをも坐るをも知り、又

遠くよりわが思念をわきまへ給ふ。（詩篇一三九篇一、二）

神様は、世界ぢうの人をごぞんじです。私たち一人々々の事をよくごぞんじです。働くことも、勉強することも、眠ることも、また心に思ふことも語ることも、凡てを知つてゐ給ひます。私たちは神様の御目から隠れることも、また匿すこともできません。それだけにまた、私たちは安心して神様に頼ることができます。

◇十一月二十六日◇

わが魂は默してただ神をまつ、わが救ひは神よりいづるなり、神こそはわが磐わが救ひなれ、またわが高き櫓にしあれば我いたくは動かされじ。（詩篇六二篇一、二）

苦しい時や、悲しい時に、やたらに歎いたり、心を騒がせても仕方がありま

せん。その時には、ただ默つて、神様のお助けを祈りながら待つてゐるのがよいのです。神様のお助けは大きな磐や、高い櫓のやうに、私たちを安全にお護り下さいます。

◇十一月二十七日◇

全地よ、神に向ひて歡びよばはれ、その御名の榮光をうたへ、その頌美をさかえしめよ。（詩篇六六篇一、二）

神様の御手でつくられた世界の凡てのものよ、言葉を語るものは言葉を以つて、聲のあるものは聲を以つて、言葉も聲もないものは、その美しい形を以つて、造物主なる神様をよろこびよばはれ。そのみさかえをたゝへよ。聖名を讃美せよ。私たち小さい子供は心から歌ひませう。

◇十一月二十八日◇

おのおの己がことのみをかへりみず人のことをもかへりみよ。（ピリピ書二章四）

私たちは他人の身になつて考へてみることが大切であります。氣の毒な人に同情することも、苦しんでゐる人になさけをかけることも知らず、自分さへよければ他人はどうでもよいと思ふ人は、人間としてまことに價値のない者であります。自分だけ神様を信じてよろこんでゐるのでは神様のお悅びになる人ではありません。自分のよろこびを人にわけ、人の苦しみを自分にわけ合ふことが大事です。

◇十一月二十九日◇

涙と共に播く者は歡喜と共に收穫らん、その人は種をたづさへ涙と共にいてゆけど、禾束をたづさへ喜びて歸り來らん。（詩篇一二六篇五、六）

涙の出るやうな苦しい骨折をしなければ、良い收穫はありません。勉强する

にも、立派な人になるにも、涙の出るやうな苦みを忍んで努力しなければなりません。けれども、その苦しみの種蒔きは、やがてよく實つて、大きな喜びを苅取ることができます。

◇十一月三十日◇

子たる者よ、汝ら主にありて兩親に從へ、これ正しき事なり。（エペソ書六章一）

親孝行をしなければならぬことは誰でもよく知つてゐます。聖パウロは「神様を信じ、イエス様の御教によつて親孝行をせよ」と申しました。御教に從つて親孝行をするならば、きつと立派な實行ができます。知つてゐても、實行することは六つかしいものです。

◇十二月一日◇

主は主によりたのむ者をよく知り給ふ。（ナホム書一章七）

學校の先生でも、或は目上の人でも、またお友だちでも、よくたよつてくる人には、特別に親しくなり、親切を盡します。神様は私たち一人々々のことを御存じですけれども、こちらから一生懸命に賴る者を、特別によく知つて下さつて、無くてならぬ物をお與へ下さいます。

◇十二月二日◇

エホバの家に住む者は幸福なり、かゝる人は常に汝をたゝへまつらん。（詩篇八四篇四）

神様のお家は、遠い天にあるのではありません。また教會堂といふ建物でもありません。そこは、神様と人と一緒に住む愛のある清い家庭です。その家庭こそ、神様が御主人で、皆が、その仰せに從つて樂しく暮します。

◇十二月三日◇

たとひ死のかげの谷をあゆむとも禍害をおそれじ、汝われと共に在せばなり、なんぢの苔汝の杖われを慰む。（詩篇二三篇四）

世の中には、苦しんでゐる人が澤山あります。自殺をして死ぬ人もずゐぶん多くあります。また病氣が重くなつて死にさうになることもあります。神様を信じてゐる人は、たとへそのやうな暗い谷間にはいつた時でも、神様が一緒にゐて下さいますから、少しも恐れることはありません。神様が與へて下さる杖、勵まして下さる鞭によつて元氣を出すことができます。神様の杖と鞭は痛くても却つて嬉しい慰めとなります。

◇十二月四日◇

義しき者はかならず聖名に感謝し直者はみ前に住まん。（詩篇一四〇篇一三）

「私は何にも曲つた事をしないから神様など信じなくてもよい」と云ふ人が

あります。しかしそれはまちがつてゐます。人間は義しければ義しいほど神様を敬ふのがほんたうです。ほんたうに立派な義しい人が天の父なる神様に背いてゐてよろしい筈はありません、神様の御守りを受けながら、それを感謝して暮すことが、義しい人、直きの人のなすべきことです。

◇十二月五日◇

エホバをよぶ者、誠をもてこれをよぶ者にエホバは近くましますなり。（詩篇一四五篇一八）

神様は、高い〳〵天の上にだけゐらつしやるのではありません。遠い〳〵海の彼方にばかりゐらつしやるのでもありません。神様は、いつでも私たちに近くいらつしやいます。部屋でも學校の教室の中でも、また廣い野原でも、電車の中にでも、私たちと一しよにいらつしやいます。私たちが神様をおよ

びするならば、いつでも聽いて下さいます。

◇十二月六日◇

その望をおのが神エホバにおく者は幸福なり。（詩篇一四六篇五）

皆さんは、立派な人にならうとか、どんな事をしようとか、さうしたいろいろの望をもつていらつしやるでせう。さういふ望を神様にお任せすることが第一であります。神様にお祈りしながら、その望に向つて進むならば、神様はおたすけ下さいます。また皆さんに一番よい方法をお教へ下さいます。

◇十二月七日◇

すべての生ける者に食物を與へ給ふものに感謝せよ。（詩篇一三六篇二五）

神様は凡ての動物に食物をお與へになります。人間の食べる穀物や野菜物、果物、魚など、多くの物をお與へ下さいます。私たちは神様のお與へ下さる

物を感謝していただきませう。あれが厭だとか、これが嫌ひだとか言ふのはお母さまに不平を言ふのでなく、神様に不平を申上げることになります。何でも感謝していただかなければなりません。

◇十二月八日◇

エホバは乏しき者の祈を顧み、彼等の祈を藐しめたまはず。（詩篇一〇二篇一七）

世の中では、貧しい人や、學問のない人や、子供の言ふことなどは、餘りとりあげず、また相手してくれません。けれども神様は立派な人でも、貧しい人でも、子供でも同じやうに、お愛し下すつて、お祈をきいて下さいます。きれいな心でする、正直なお祈は神様に一番よろこばれます。

◇十二月九日◇

われ朝まだき起きいでて神に呼はり、聖言によりて望をいだけり。

（詩篇一一九篇一四七）

毎朝、起きたらすぐに、お祈りをすること。また朝飯の前にお祈りをする習慣をつけるのはよい事です。心から神様の聖名を呼び、神様のお言葉を思ひ出して、新しい望と元氣を與へられ、新しい一日の勉強や、御用にとりかゝる準備をいたしませう。

◇十二月十日◇

エホバよ、我を獨りにて坦然にをらしむる者は汝なり。（詩篇四篇八）

世の中の人々が、心配や苦勞をしたり、神様を恨んだり、他人を責めたりするやうな時でも、靜かにじっとしてゐる人があります。悲しい中にも感謝しなやみの中にも笑顔をもつてゐる人があります。それは何故でせう？ その

人は神様にしっかり縋つてゐるからです。他人は心うろたへても、その人は安かにしてゐます。それは其の人の我慢でなく神様の御助によるのです。

◇十二月十一日◇

エホバわれの力よ、われ切になんぢを愛しむ。（詩篇一六篇八）

私たちは、一番頼りになる人を一番愛します、兄弟でもお友だちでも、意地の惡い人や自分を苛める人とは、あまり親しくいたしません。互に勵まし慰めて力になつてくれる人こそ、ほんたうの親しみができてまゐります。神様こそは、天にも地にも一番力になるお方、また私たちの一番慕はしいお方です。

◇十二月十二日◇

エホバは草を生えしめて家畜にあたへ、田産を生えしめて人の使用にそなへ給

ふ。（詩篇一〇四篇一四）

神様は野原に草を生やして牛や馬や山羊や羊を養ひ、また田畑には食物になる植物を生やして人間が生きてゆけるやうにそなへて下さいました。私たちは田畑からとれるものがなかつたなら、生きてゆくことができません。私たちにかういふ物をそなへて下さる神様に感謝しなければなりません。またそのために働くお百姓さん達にも感謝しなければなりません。

◇十二月十三日◇

わが霊魂をなんぢの御手にゆだぬ、エホバ眞の神よ、なんぢはわれを贖ひ給へり。（詩篇三一篇五）

私たちの霊魂は、私たちのもつてゐるものゝ中で一番大切なものであります。この大切なものを、私たちが自分でもつてをりますと、汚したり、瑕つけたりしますから、神様にあづけしておくのが一ばん安全です。神様にお預けしたならば、神様に買ひ取つていただいたやうなものですから、汚したり瑕つけたりすることはありません。神様に、しつかり守つていただきませう。

◇十二月十四日◇

人は惡をもて堅く立つこと能はず、義人の根は動くことなし。（箴言一二章三）

どんなに、智慧のある人でも、力や位のある人でも、惡い事をしてゐるなら、決して榮えて行くことはできません。それは、木の根を虫がくつてゐるのと同じことで、必ず枯れて倒れます。義しい人は、根をしつかりと土の中に深くおろして生えてゐるやうなものですから、折れることも倒れることもあり

ません。

◇十二月十五日◇

汝すべての途にてエホバをみとめよ、さらば汝の途を直くしたまふべし。

（箴言三章六）

皆さんは、これから大きくなつて、それ〴〵自分に適當した仕事をするでせう。その進む道はみんな別々にちがつてゐるでせう。どんな道に進んで行つても、どんな職業をする人になつても、その道を神様と一緒に進むやうに、しなければなりません。神様はきつと皆さんの歩む道を正しく、清くお導き下さるでせう。何をするにも、神様を第一として進むならば、間違ひはありません。

◇十二月十六日◇

汝の手に善をなすの力あらば之を爲すべき者に爲さざること勿れ。

（箴言三章二七）

何でもよろしい、どんなに小さな事でもよろしい、皆さんの手で出來る善い事をするのは、大そう嬉しい事であります。お母さまのお手傳ひをすることでも、家のまはりをきれいに掃くことでも、皆さんの手で出來る事が澤山あります。小さな事からまづ始めませう。小さな善を行ふことなくして、大きな善を行ふことはできません。

◇十二月十七日◇

かたく訓誨をとりて、はなすこと勿れ、これを守れ、これは汝の生命なり。

（箴言四章一三）

聖書の中にあるいろ〳〵の御教をしつかり心にとめて、固く守つて下さい。

それは、どんな時にも、きつと皆さんのよい助けになります。そして皆さんの生命を立派に育てゝゆきます。聖書のみをしへは、皆さんの生命の糧で、これを棄てるなら生命が枯れてしまひます。

◇十二月十八日◇

義者の望はよろこびにいたり惡者の望は絶ゆべし。（箴言一〇章二八）

義しい人が義しい望をもつて働くならば、神様はその人の望をよい方にみちびいて下さいますから、きつと喜びにいたることができます。けれども義しくない心をもつて正しくない——働かないでお金儲けをしようとか、勉強しないで偉くならうとか、よい教を守らないで立派な人にならうとかいふやうな——望は決して達することはできません。そのやうな人の望は雲のやうに消えてしまひます。

◇十二月十九日◇

われ山に向ひて目をあぐ、わが扶助はいづこより來るや。わがたすけは天地をつくり給へるエホバより來る。（詩篇一二一篇一、二）

この聖句を書いた人は、世の中で一番自分の強い扶助となるものは何であるかと考へたでせう。そして神様の御殿のあるシオンの山に向つて神様のことを思ひ、自分をほんたうに助けて下さるのは、天地の造主なる神様であると考へたのです。神様こそはいつでも、また、いつまでも私たちの強い扶助であります。

◇十二月二十日◇

なんぢの聖言はわれを活かしゝが故に、今もなほわが艱難の時の安慰なり。（詩篇一一九篇五〇）

幼い時に聖書を讀んで、神様の教へを學んでゐるならば、それが一生がいの強い力となります。そして苦しい時にも、それが慰めとなり望となります。聖句をなるべく覺えて諳誦して下さい。さうしますと、それが、いつかしらきつと強い力になります。

◇十二月二十一日◇

御使、處女の許に來りて言ふ、めでたし、惠まるる者よ、主なんぢと偕に在せり。（ルカ傳一章二八）

こんなに幸ひな祝福の言葉を天使から贈られた女の人は誰でせうか。それは後に主イエスのお母様になられた處女マリヤでありました。マリヤは大そう神様を敬ふ、信仰の深い優しい人でしたから、神様はいつも一緒にゐて下さいまして、マリヤをお惠みになりました。

◇十二月二十二日◇

聖靈なんぢに臨み、汝が生む所の聖なる者は神の子と稱へられん。（ルカ傳一章三五）

いつも神様と御一緒にゐて、恭しく、清く氣高く暮したマリヤに「あなたは聖靈によつて神様の御子と言はれるお方をお產しますよ」と、天使が、この上もない不思議なお知らせを傳へました。これは、まだマリヤがヨセフの所へお嫁入りをしない時でした。

◇十二月二十三日◇

わが心主を崇め、わが靈は救主なる神を喜びまつる。そは婢女の卑しきをも顧み給へばなり。（ルカ傳一章四六—四八）

天使から、神様の御子がお生れになるといふお知らせをきいたマリヤは、大

そう喜んで「私のやうなつまらない者をお恵み下さる神様に感謝をいたします」と、喜びの御禮を申し上げました。

◇十二月二十四日◇

視よ、この民一般に及ぶべき、大なる歡喜の音信を我汝らに告ぐ。今日ダビデの町にて汝らの爲に救主うまれ給へり。これ主キリストなり。

（ルカ傳二章一〇、一一）

時はおよそ一九四〇年の昔、ユダヤの野原で、牧者達が夜羊の番をしてをりますと、天使が現れて、この喜びの音づれを告げました。これは世界中の人をお救ひ下さる救主イエス・キリストのお生れになつたことを知らせたものでした。なんといふ「大なる歡喜の音信」でせう！

◇十二月二十五日◇

（クリスマス）

いと高き所には榮光神にあれ、地には平和、主の悦び給ふ人にあれ。

（ルカ傳二章一四）

これは、救主イエス様のお生れになつた時、多くの天使が、神様にさゝげた讃美の言葉であります。救主のお誕生によつて、神様のみさかえがあらはれ、救主のお仕事によつて神様のお悦びになる人々の上に平和と幸福があるやうにといつて歌つたものでした。——イエス様のお誕生をお祝ひすることをクリスマスと申します、そのクリスマスは大抵この日に行はれます。

◇十二月二十六日◇

イエス智慧も身の丈も彌増り、神と人とに益々愛せられ給ふ。

（ルカ傳二章五二）

幼兒は漸々に成長して健かになり、智慧みち、かつ神の惠その上にありき。

（ルカ傳二章四〇）

神の御子イエス様は、神様の特別なお守りのもとに、すぐれた智慧と、丈夫な體をもつて、ずん〳〵お育ちになりました。そして大きくおなりになるにつれて、神様と人とに益々愛せられなさいました。

◇十二月二十七日◇

神の造り給へる物はみな善し、感謝して受くる時は棄つべき物なし。

（テモテ前書四章四）

神様は世の始めに、いろ〳〵のものをお造りになつた時、それを御覽になつて、「善く出來た」と仰せになりました。（創世記一章一〇、一二、一八）神様のお造りになつた物に惡い物は一つもありません。何を見ても人間の爲になる物ばかりでした。こんなに善い物をお與へ下すつた神様に、心から感謝いたしませう。感謝していただくならば、つまらない物は一つもありません。

◇十二月二十八日◇

神は智慧と知識と喜樂とを賜ふ。

（傳道書二章二六）

神様は、人間に物を考へたり工夫したりする智慧と知識をお與へになりました。私たちは、その智慧によつて、家を作つたり、綿や着物を作つたり、瓦斯や電氣を起したりいたします。その智慧や知識を與へられてゐるために、いろ〳〵の喜樂をもつことができます。そのうへ、神様を信ずる人は、天の智慧や限りなき喜樂をも與へられることが出來ます。

◇十二月二十九日◇

エホバの汝に要めたまふ事は、唯正義を行ひ憐憫を愛し謙遜りて汝の神と偕に歩む事ならずや。

（ミカ書六章八）

神様は、私たちに多くの惠をお與へ下さいました。けれども、神様の方から

私たちにおもとめになることが少しあります。それは正義を行ふこと、他人に仁慈をかけて喜ぶこと、もう一つは謙遜な心を以つて神様に從つて暮すことです。神様と御一緒に働き、また勉強し、遊び、憩むことは、なんと幸ひなことではありませんか。

◇十二月三十日◇

われ一つの事をエホバに請へり、……わが世にあらん限りは、エホバの家に住まんことを願ふなれ。（詩篇二七篇四）

ダビデといふ偉い王様は、たいそう立派な暮しをして、みんなに敬はれましたけれども、それよりも神様に仕へて一生を送りたいと申しました。この世の富も權力もよいものですけれども、神様の下さる愛と平和と歡喜には及びません。私たちも、義しく生きて、幸福に暮すことを、神様にお祈りいたしませう。

◇十二月三十一日◇

謙遜とエホバを畏るることの報は、富と尊貴と生命なり。（箴言二二章四）

今日は一年ぢうの終りの日です、お正月から今日まで、私たちは、どのやうな事をしてきたでせう？　謙遜な心で神様を敬ひ人を愛して暮したでせうか。しづかに考へてお祈りをいたしませう。

イエス様によりて、すべての罪や過をゆるして戴き、きれいな心になつて此の年を送りませう。

PRINTED IN JAPAN

昭和十年十二月十二日印刷
昭和十年十二月十六日發行

定價金六十錢

著者　野邊地天馬
　　水向榮太郎

發行者　東京市京橋區銀座四丁目二番地
　　松野菊太郎

印刷者　東京市京橋區湊町三丁目二番地
　　木藤彦三郎

印刷所　東京市京橋區湊町三丁目二番地
　　三豐社印刷所

發行所　東京市京橋區銀座四丁目二番地
　　教文館出版部

發賣所　東京市京橋區銀座四丁目二番地
　　教文館
　　振替口座東京一一三五七番

　　京都市河原町通リ丸太町上ル
　　同京都支店
　　振替口座大阪六二二三一番

不許複製

發賣所　東京文學社

編輯兼發行人　藤井甚太郎

明治三十四年十二月十四日印刷
明治三十四年十二月十五日發行

東京市本郷區西片町十番地
印刷者　三浦清一

東京市本郷區西片町十番地
發行者　藤井甚太郎

東京文學社

賣價金六十錢

PRINTED IN JAPAN

347
709

DAILY STRENGTH FOR CHILDREN

by

T. Nobechi and E. Mizumukai